

ALBIREX RACING TEAM レースレポート

2017年 全日本 F3 選手権 第8戦 岡山国際サーキット

アルビレックスレーシングチーム、マイナートラブルに見舞われる

全日本 F3 選手権の第4大会が、岡山国際サーキットで開催されました。開幕戦の地でもあった岡山に戻ってきたアルビレックスレーシングチームの2台は、26日(金)の専有走行から積極的に周回。チームの実戦組織に改善を加えたことで、ドライバーにとっては一層ドライビングに集中できる環境となり、開幕戦と同じサーキットで戦うことで、シーズンインのころと比べてどれだけ成長したかも確認できる週末となりました。

27日(土)の午前中に行われた予選は、第8戦、第9戦それぞれ10分間のセッションを行う方式。第8戦の予選でカルネイロ選手は最終ラップにドライビングをまとめ上げ、ベストタイムを更新して11位に。いっぽう長谷川選手はマシンセッティングと路面状況が合わなかったことでタイムを削ることができず、F3-Nの7位にとどまりました。

この日の午後、曇り空の下でスタートした第8戦決勝。18番グリッドからスタートした長谷川選手は順調にポジションアップし、11周目にはF3-Nの3番手まで追いましたが、13周目に突如マシンがスローダウン。燃料系にマイナートラブルが発生し、チェッカーを受けることなくレースを終えることになりました。

11番グリッドのカルネイロ選手は、タイミング良くスタートを切って前を行くマシンをパスし、9番手あたりまでポジションを上げましたが、エンジントラブルに見舞われてオープニングラップにピットイン。そのままレースを終えることになり、アルビレックスレーシングチームは2台ともリタイアとなりました。

#21 ブルーノ・カルネイロ (AlbirexRT-WILSON: ダラーラ F315/ Mercedes-Benz 414)

予選 11位 / 決勝リタイア

「スタートしてすぐにポジションを上げることができて、いいレースができるという手ごたえを感じていたのですが、マシンに異常を感じてピットに戻るようになってしまいました。富士大会に続いてポイント圏内でフィニッシュできる自信があったので残念ですが、マシンは問題なく修復できるというので、気持ちを切り替えて第9戦に臨みたいと思います」

#22 長谷川綾哉 (Alb 新潟第1ホテル Suger: ダラーラ F308/トヨタ・トムス 3S-GE)

予選 7位 / 決勝リタイア

「予選では路面状況の読みが少し甘く、いいグリッドを得られなかったので、決勝ではしっかり追いつけようと思って臨みました。実際、3番手までポジションを上げられて、まだまだ追いつかれる自信はありましたが、マシントラブルでレースを終えてしまったのは残念です。ペースは悪くなかったため、第9戦はトップ争いができると思っています」

ALBIREX RACING TEAM レースレポート

2017年 全日本 F3 選手権 第9戦 岡山国際サーキット

長谷川選手、自身5度目の表彰台を獲得

全日本 F3 選手権・第9戦で、アルビレックスレーシングチームの長谷川綾哉選手が、F3-N で2位表彰台を獲得しました。

前日に行われていた予選では、長谷川選手は F3-N の3番グリッドを獲得しました。直前に行われた第8戦予選ではセッティングを詰めきれずペースを上げられませんでした。その反省から短時間でセッティングを調整。大きくベストタイムを更新することに成功しました。ブルーノ・カルネイロ選手は第8戦と同じく11番グリッドを獲得しました。

決勝レースは28日(日)に行われ、長谷川選手は好スタートを切って2番手にポジションアップ。トップのマシンからは徐々に差を広げられてしまいましたが、自身のドライビングに集中し、安定したラップタイムを重ねていきました。レース中盤からは3番手のマシンと接近戦を展開。一時は0.4秒差まで迫られましたが、ここでも走りのリズムを乱すことなく応戦し、しっかりと相手の攻めをブロックしていきました。その後続車両がレース終盤に単独スピン。これで長谷川選手は接近戦から解放され、2位をキープしてフィニッシュ。今シーズン5度目の表彰台を獲得しました。

マシントラブルにより第8戦を戦うことができなかったカルネイロ選手は、その修復なった車両を駆り、まずスタートで1台のマシンをかわし10番手に。長谷川選手同様に後ろのマシンに差を詰められていましたが、ミスのない走り続けていました。終盤、相手が単独スピンで後退すると、ペースを上げて追い上げを開始。順位の入替えはかありませんでしたが、最後まで全力でプッシュをし続けて10位でフィニッシュしました。

#21 ブルーノ・カルネイロ (AlbirexRT-WILSON: ダラーラ F315/ Mercedes-Benz 414)

予選 11位 / 決勝 10位

「チームがマシンの問題点をクリアにしてくれて、今日は第8戦と違ってレース中ずっとプッシュすることができました。何台かはコース上でとらえることができましたが、それ以上のバトルをするには、少しスピードが足りなかったです。今週はタイヤについての勉強も進みまし、レベルアップするためにいろいろと悩むこともありましたが、今回自分の中に取り込めたものが、次の鈴鹿大会や富士大会にプラスになると考えています」

#22 長谷川綾哉 (Alb 新潟第 1 ホテル Suger: ダラーラ F308/トヨタ・トムス 3S-GE)

予選 3 位 / 決勝 2 位

「スタートから、トップのマシンのペースが非常に良く、最後まで追いつくことができず残念です。3 番手のマシンとずっと競り合っていましたが、押さえきる自信はありました。昨日完走できずに悔しい思いをしたので、優勝に手が届かなかったことは残念ですが、走りきれたことにホッとしました。次のレースは鈴鹿ですが、ここではまだ 3 位までしか届いていないので、今度はその上に行けるよう頑張ります」

中村寿和チーム代表

「今大会ではマシントラブルやミスなど、様々な問題が起きました。第 8 戦では 2 台揃って完走できずチームとしても非常に残念な結果となってしまいましたが、そんな中でも長谷川選手は常に落ち着いた様子で、第 9 戦ではしっかりと速さを見せてくれました。カルネイロ選手はこれまでに比べて少し元気がないように見えたが、彼なりに前に進むために、いろいろなことを考えていたのではないのでしょうか。次戦は再び鈴鹿大会となりますが、今回起きてしまった問題を繰り返さないよう、全体で話し合って臨みたいと思います」